

ローマ 8

“こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。”
ローマ人への手紙 8章1節

Q1 なぜ罪に定められることがないのか？

“なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。”

ローマ人への手紙 8章2節

Q2 どのように解放されましたか？

“肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。”

ローマ人への手紙 8章3節

“私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。

私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。しかし、今は、私たちは自分を捕らえていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。”

ローマ人への手紙 7章4~6節

“神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。”

コリント人への手紙 第二 3章6節

“罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めには、なおさら、栄光があふれるのです。”

コリント人への手紙 第二 3章9節

“すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。”

コリント人への手紙 第二 5章19節

“神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです。”

コリント人への手紙 第二 5章21節

“神の約束はことごとく、この方において「しかり」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン」と言い、神に栄光を帰するのです。”

コリント人への手紙 第二 1章20節

“というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。”

ヨハネの福音書 1章17節

“あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。”

エペソ人への手紙 2章8節

Q3 新しい歩みとは？

“それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。”

ローマ人への手紙 8章4節

“また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。”

エペソ人への手紙 5章18節

“エフライムは勇士のようになり、その心はぶどう酒に酔ったように喜ぶ。彼らの子らは見て喜び、その心は主にあって大いに楽しむ。”

ゼカリヤ書 10章7節

“彼らはあなたの家の豊かさを心ゆくまで飲むでしょう。あなたの楽しみの流れを、あなたは彼らに飲ませなさいます。”

詩篇 36篇8節

“私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。”

ヨハネの福音書 1章16節

“肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。”

ローマ人への手紙 8章6節

“盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。”

ヨハネの福音書 10章10節

“神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。”

ペテロの手紙 第二 1章2節

“まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。”

詩篇 1篇2~3節

“あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。”

ローマ人への手紙 8章15節

“だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありません

んか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえない。働きもせず、紡ぎもしません。

しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。”

マタイの福音書 6章 25～33 節

“私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。”

ローマ人への手紙 8章 32 節

“なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。”

ローマ人への手紙 14章 17 節

“被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。”

ローマ人への手紙 8章 19 節

“被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。”

ローマ人への手紙 8章 21 節

“なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。

神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。”

ローマ人への手紙 8章 29～30 節

“神に選ばれた人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。

罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。”

ローマ人への手紙 8章 33～34 節

“しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、

高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。”

ローマ人への手紙 8章 37～39 節

“もしひとりの違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりのイエス・キリストにより、いのちにおいて支配するのです。”

ローマ人への手紙 5章 17 節